

吉川区でコウノトリのヒナ誕生

新潟県内初のビッグニュース



6日、上越市吉川内にてコウノトリのヒナが誕生しました。これは兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園の専門家に私が撮影した動画を送信し、確認していただいたものです。動画ではヒナの姿は写っていなかったものの、親鳥がエサを体内から吐き出し、誕生したヒナにくれている様子が写っていました。新潟県でコウノトリの卵が孵化したのは初めてですが、コウノトリもトキもヒナが誕生したというのは全国でも新潟県だけです。ヒナは順調に育つと2か月ちょっとで巣立ちます。今後無事巣立つよう、静かに見守っていきたいものです。ご協力よろしくお願いします。

写真のつがいには、ヒナが何羽いるか、これから孵化するものがあるかどうかなど詳しいことはまだ不明です。親鳥は、足環の色から判断すると、オスが2020年4月9日、兵庫県豊岡

市生まれ、メスは2019年4月30日兵庫県豊岡市生まれと思われま。4月2日、私はコウノトリが吉川区内で産卵、抱卵している様子を撮影し、コウノトリの郷公園の専門家から見てもらい、「抱卵しているものと思われる。孵化の予定日は5月6日」と予想していただきました。以来、ずっとコウノトリの様子を観察してきました。無事ヒナが誕生して良かったです。右上の画像は6日の午後2時半ころ撮影したものです。

ヒナの誕生後の動画は私のブログ、「ホーセの見てある記3」の6日の記事 (www.hose1.jp/mitearuki3/5035/) のところで見ることができます。ごらんください。

川谷の地滑り工事は10億円を超える見込み

2年前の3月16日に吉川区川谷で発生した地滑りの復旧工事について、新潟県上越地域振興局による地元説明会が2日旧川谷校体育館であり、私も参加してきました。

振興局からは地域整備部の維持管理課長など3名がこられ、地元の川谷、石谷から10名ほどが説明を聴きました。

振興局によると、今年の3月末に災害復旧の設計が終了した、現在、災害復旧工事の進め方をめぐって国と協議中とのことでした。災害事業の申請は6月頃になり、冬期の降雪のことを考えると、工事着手は事実上来年5月頃になる見込みだと言います。

総工費は概算で10億円を超えるそうです。予想した以上の大規模工事になります。工事も5、6年かかりそうです。工程の見通しが立ち次第、再び説明会を開催するそうですが、びっくりしました。どうあれ、この場所は大島区と吉川区を結ぶ極めて重要な路線にありますので、一時も早く復旧させてほしいです。

右上のイラストは同日の説明会の様子です。その下の写真は今月7日に撮影した地滑り現場の様子です。



【ホウチャクソウ】イヌサフラン科の多年草。漢字で「宝鐸草」と書きます。山地や雑木林などでよく見かけます。花期は5月～6月中旬。薄緑色の細長い筒状の花を咲かせます。写真の花は1個だけですが、2個または3個咲くこともあります。花言葉は、「あなたを離さない」。写真は5月2日、吉川区の坪野親水公園にて撮影しました。



メーデー上越集会、デモに参加

メーデー上越集会、デモに参加してきました。集会では、岸田内閣の軍拡路線を批判し、平和外交を求めるとともに、消費税の5%減税、賃上げのための大企業の内部留保課税の実施、原発再稼働中止などをうったえる宣言を採択しました。集会後は、高田の市街地をデモ行進しました。左のイラストはデモ行進の前の方を描きました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2155 2024.5.12

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八〇二回

鯉の産卵

車を下りたら、近くでバシャバシャという音がしました。何かと思っ、すぐそばの池を見たら、鯉が暴れているじゃありませんか。

四月の最後の日、朝七時頃のことです。「しんぶん赤旗」の配達を終え、活動しポートをFさん宅へ届けようと、吉川区にある小苗代池のそばに車を止めた時でした。池の道路側の一角にある浅瀬で「事件」が起きていたのです。

浅瀬にいたのは体長が五〇センチくらいの鯉です。五、六匹はいたと思います。普段は池の中ですぐ泳いでいるのですが、この時は鯉たちが競い合って浅瀬を猛スピードで移動し、からみ合い、水しぶきをあげていました。見たところ、水があろうがなかろうが、関係なしといった感じでした。浅瀬にあったシヨウブの茎はなぎ倒されて見ました。このような鯉の激しい動きは初めて見ました。

Fさんに、「鯉のすさまじい動きを見ました」と伝えると、「鯉の産卵です」と言われました。

Fさんによると、産卵行動では一匹のメスの鯉の上に何匹ものオスが乗っかかろうと激しく争い、水しぶきを上げるとか。私が見た「事件」はまさにその光景だったのです。浅瀬のシヨウブの芽が出る少し前にもこうした動きがあったとGJさんでした。

私にとっては人生で初めて見た鯉の産卵でしたが、Fさんなど産卵場所の近くに住む人たちにとっては昔から繰り返し見えてきた光景です。産卵は毎年四月頃から始まって七月頃までに二、三回行われるとのことでした。

小苗代池には今回見た浅瀬だけでなく、昔はそこから二〇センチほど離れた東側のへこんだ場所の木の下にも鯉が集まっていたといわれています。Fさんは中学生の頃、雪の重みで曲がり、池の水面近くに伸びている木の

枝の上から鯉をヤスで仕留めた思い出があるそうです。Fさんの一番下の妹さんは五月一日生まれだとのことですが、妹さんが生まれた時、近所のおばあさんに、「お母さんに鯉を食べさせると、おっぱいがいっぱい出るよ」と言われ、鯉をヤスで捕まえたとのことでした。

今回、私が偶然出会った鯉の産卵は四月三〇日、Fさんが中学生の時、出会った産卵は五月一日、わずか一日違いです。Fさんからは、「最高のタイミングで鯉の産卵と出会いましたね」と言われました。鯉の産卵は水深の浅い場所です。早朝、いっときの時間に行われるそうです。訪問の時間次第では出会えなかったのです。

「最高のタイミング」と言われ、思い出したのは、三年前に同じ小苗代池で見た川鵜による魚の「鵜呑み」の様子です。

三月の土曜日の正午頃、黒い鳥が三〇センチほどの大きな魚をくちばしにはさんでいました。魚は鯉だったように思います。デジカメのズームを伸ばして見たのは、魚を取り逃がさないように、くちばしで必死になつて押さえている鳥の姿と、鳥のくちばしから逃げようと盛んに体を揺さぶり動かしている魚の姿でした。最後は、黒い鳥は大きな魚を丸ごとくちばしから喉へと呑み込みました。あの時もびっくりでした。

小苗代池には数日後、鯉の産卵後の様子を見に出かけました。産卵時に痛めつけられ、なぎ倒されたシヨウブの茎は立ち直つてきていました。シヨウブの群生地から池の中を見たら、大小さまざまな木の枝などが沈んでいました。

産卵前の風景が戻りつつあり、一見、何事もなかったように見えました。池の中の木の枝の周辺には薄黄色いものが付いています。ひよっとすると、鯉の卵かも知れませんが、これからは、どういった展開になるのか楽しみになってきました。

大島旭の新緑祭、楽しく、賑やかに

今年もナナ林の散策コースと山菜採りコースがあり、散策コースは牛田光則さんが案内役、山菜コースは内山守さんなど5人が案内役でした。

私は今回も山菜採りを選びました。今年、ウドもすでに最盛期を過ぎています。私は山菜採りが大好きで、「最盛期を過ぎたウドをどう採るか」「この時期でも最盛期並みのウドを見つけるにはどうしたらいいか」などについて知っていますので、事実上、案内役も務めました。ウドやワラビ、ワサビなどの山菜をたくさん採った人たちからは喜んでもらえました。

大島区旭新緑祭が終わってから、田麦の農家民宿、「うしだ屋」さんで歌と落語を楽しみました。劇団「風の子」の井部直人さんが挨拶し、名古屋市からやってきた劇団「ほんわかシアター」の2人による公演でした。子どもも大人も楽しめる素敵なイベントでした。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月24日(水)	5月8日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.050	0.040
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.053	0.057

春よ来い

第八〇二回

鯉の産卵

車を下りたら、近くでバシャバシャという音がしました。何かと思っ、すぐそばの池を見たら、鯉が暴れているじゃありませんか。

四月の最後の日、朝七時頃のことです。

「しんぶん赤旗」の配達を終え、活動しポートをFさん宅へ届けようと、吉川区にある小苗代池のそばに車を止めた時でした。池の道路側の一角にある浅瀬で「事件」が起きていたのです。

浅瀬にいたのは体長が五〇センチくらいの鯉です。五、六匹はいたと思います。普段は池の中ですぐ泳いでいるのですが、この時は鯉たちが競い合って浅瀬を猛スピードで移動し、からみ合い、水しぶきをあげていました。見たところ、水があろうがなかろうが、関係なしといった感じでした。浅瀬にあったシヨウブの茎はなぎ倒されて見えました。このような鯉の激しい動きは初めて見ました。

Fさんに、「鯉のすさまじい動きを見ました」と伝えると、「鯉の産卵です」と言われました。

Fさんによると、産卵行動では一匹のメスの鯉の上に何匹ものオスが乗っかかろうと激しく争い、水しぶきを上げるとか。私が見た「事件」はまさにその光景だったのです。浅瀬のシヨウブの芽が出る少し前にもこうした動きがあったのです。

私にとっては人生で初めて見た鯉の産卵でしたが、Fさんなど産卵場所の近くに住む人たちにとっては昔から繰り返し見えてきた光景です。産卵は毎年四月頃から始まって七月頃までに二、三回行われるとのことでした。

小苗代池には今回見た浅瀬だけでなく、昔はそこから二〇センチほど離れた東側のへこんだ場所の木の下にも鯉が集まっていたといわれています。Fさんは中学生の頃、雪の重みで曲がり、池の水面近くに伸びている木の

枝の上から鯉をヤスで仕留めた思い出があるそうです。Fさんの一番下の妹さんは五月一日生まれだとのことですが、妹さんが生まれた時、近所のおばあさんに、「お母さんに鯉を食べさせると、おっぱいがいっぱい出るよ」と言われ、鯉をヤスで捕まえたとのことでした。

今回、私が偶然出会った鯉の産卵は四月三〇日、Fさんが中学生の時、出会った産卵は五月一日、わずか一日違いです。

Fさんからは、「最高のタイミングで鯉の産卵と出会いましたね」と言われました。鯉の産卵は水深の浅い場所です。早朝、いっときの時間に行われるそうです。訪問の時間次第では出会えなかったのです。

「最高のタイミング」と言われ、思い出したのは、三年前に同じ小苗代池で見た川鵜による魚の「鵜呑み」の様子です。

三月の土曜日の正午頃、黒い鳥が三〇センチほどの大きな魚をくちばしにはさんでいました。魚は鯉だったように思います。デジカメのズームを伸ばして見たのは、魚を取り逃がさないように、くちばしで必死になつて押さえている鳥の姿と、鳥のくちばしから逃げようと盛んに体を揺さぶり動かしている魚の姿でした。最後は、黒い鳥は大きな魚を丸ごとくちばしから喉へと呑み込みました。あの時もびっくりでした。

小苗代池には数日後、鯉の産卵後の様子を見に出かけました。産卵時に痛めつけられ、なぎ倒されたシヨウブの茎は立ち直つてきていました。シヨウブの群生地から池の中を見たら、大小さまざまな木の枝などが沈んでいました。

産卵前の風景が戻りつつあり、一見、何事もなかったように見えました。池の中の木の枝の周辺には薄黄色いものが付いています。ひよっとすると、鯉の卵かも知れません。これから先、どういった展開になるのか楽しみになってきました。

久々に山直海の八幡宮春まつりへ

5月1日、吉川区山直海の八幡宮の春まつりに参加してきました。以前、東京の荒川祭りに参加したときに、Sさんに「おらったりの祭りにも来てくんないや」と言われ、参加した時以来ですから2度目です。

この日はメーカー集会和デモに参加したため、かろうじて神楽の舞のスタートに間に合いました。

舞をされたのは市内の近隣の神主さんたちです。国田のYさんなどなかなかの役者さんぞろいで、迫力満点のすばらしい舞でした。ひょうきんな動作もたくさんあって、爆笑に次ぐ爆笑でした。

今回は地域おこし協力隊のSさんも「協力出演」、見ている人たちから、「しっかり守れ」などといった声に応え、見事に演じていました。演奏あり、エロキズムいっぱい行動もあって、楽しいひとときでした。市議選の最中、候補者カーを走らせているときに、袂いをしてくださった神主さんにも会いました。紙面で失礼とは思いますが、御礼申し上げます。ありがとうございました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月24日(水)	5月8日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.050	0.040
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.053	0.057